

学校安全総合支援事業報告書【防災に関すること】

学校名「 熊本県立天草支援学校（高等部） 」

住所：熊本県天草市本渡町本戸馬場 495 番地

電話：：0969-24-3434

I 学校の基本情報

○生徒数：51人（9学級）

○職員数：31人

○熊本地震（または令和2年7月豪雨）の状況

熊本地震、令和2年7月豪雨の被害は特になし。

II 取組の概要

1 安全教育手法の開発・普及

(1) 防災教育の実施

カリキュラム・マネジメントの視点を持ち、各学年の教科学習の中に防災教育を取り入れた。具体的には、社会科では、日本で起こりやすい自然災害の種類とその対策、理科では、天気の変化や水の働きと土地の変化、家庭科では、電化製品の使い方や調理の単元等で防災教育を行った。

「学校防災教育指導の手引き」の活用に関しては、手引きを用いた授業を9月に行った。また、職員研修や防災通信の発行、危機管理マニュアルの見直しにも手引きを活用した。

(2) 機能訓練を踏まえた実践的な避難訓練の実施

- 4月・地震避難訓練
- 5月・天草支援学校・天草拓心高等学校合同火災訓練
- 7月・天草支援学校・天草拓心高等学校職員合同火災避難訓練
- 9月・緊急地震速報訓練
- 10月・天草支援学校・天草拓心高等学校合同地震・火災避難訓練
- 11月・シェイクアウト訓練
 - ・防災教育・引き渡し訓練
- 1月・緊急地震速報訓練

(3) 防災主任の資質・能力の向上と校内の連携体制の構築

- ア 校内職員研修（危機管理）の実施
- イ 学校運営協議会のテーマとして設定
- ウ 防災管理の校内体制の整備・計画
- エ 天草拓心高等学校防災担当者との情報共有
- オ 防災主任研修会及びホームケア研修会参加
- カ 先進地視察の参加
- キ 公開授業への参加

(4) PDCAサイクルに基づく、危機管理マニュアル及び学校安全計画の検証・改善

- ア 毎年、年度当初に危機管理マニュアル、学校安全計画の職員周知
- イ 危機管理マニュアルに基づいた実践的な避難訓練や防災教育に関する行事の実施
- ウ 避難訓練等の実施後に成果・課題の集約
- エ 年度末に危機管理マニュアル、学校安全計画の見直し・改善

(5) AEDを用いた心肺蘇生法

- ・消防署から職員を派遣していただき、AEDと心肺蘇生用ダミー人形を用いて実技訓練を実施した。
- ・高等部1年の保健の学習で、AEDキットを用いて心肺蘇生法を学習した。

III 取組の成果と課題

1 安全教育手法の開発・普及

(1) 防災教育の実施

ア 成果

各学年の各教科の年間指導計画の中に防災教育を取り入れたことで、防災についての理解が一層深まった。具体的な備えや災害時の対応方法を考えることができるようになり、学んだことを日常生活にも生かすことができた。また、発電機体験や毛布担架体験、冠水時の歩き方など、体験的な学習にも取り組むことができ、実践的な力を身に付けることにつながった。



イ 課題

今年度行った学習評価を踏まえて、扱う内容や実施時期を見直し、学びのつながりを分かりやすく整理することで、日常生活により生かせる年間指導計画を立てる必要がある。

(2) 機能訓練を踏まえた実践的な避難訓練の実施

ア 成果

天草拓心高等学校と合同で地震・火災避難訓練を行い、同一敷地内にある2校舎の連絡体制を確認することができた。また、防火シャッターが閉まっている状況でも安全に避難可能なことを教師と生徒が確認することができた。さらに、本校高等部が現在の場所へ移転して以来、初めてとなる保護者引き渡し訓練を実施することができた。



イ 課題

避難経路の遮断や停電、けが人の発生など、様々な状況を想定した訓練を実施する必要がある。

(3) 防災主任の資質・能力の向上と校内の連携体制の構築

ア 成果

各種研修や先進地の視察を通して、防災の重要性を改めて認識することができた。また、学校運営協議会や学校安全

総合支援事業推進委員等の方々から多角的な視点で助言をいただき、取組に生かすことができた。

イ 課題

防災教育の継続及び定着を図るためには、地域の自然環境や災害リスクを踏まえた防災体制づくりが必要である。地域の特性を理解したうえで、学校・家庭・地域が連携し、実践的な防災教育に取り組みことが求められる。

(4) PDCAサイクルに基づく、危機管理マニュアル及び学校安全計画の検証・改善

ア 成果

年度当初に職員研修を実施し、危機管理マニュアルや安全管理に関する内容を周知した。さらに、各種訓練の実施前後に得られた意見をもとに、より実効性の高い危機管理マニュアルへと改善することができた。

イ 課題

教職員全体で危機管理に対する理解度にばらつきがあるため、計画の精度が十分とは言えない。また、児童・生徒や保護者の意見を適切に反映していくことも今後の課題である。

(5) AEDを用いた心肺蘇生法

ア 成果

教師は専門的な知識を習得して緊急時の指導力を高め、生徒は体験的な学習を通して命を守る行動の大切さを実感することができた。また、地域の消防署との連携も強化された。

イ 課題

技能の定着を図るとともに、「周囲への協力要請」や「役割分担」などの体制を確立していくために、継続的かつ実践的な研修の実施が必要である。

